

児童 杉並区「意識・実態調査」(学習・生活についてのアンケート) 対象全学年(1年生は①②のみ11月実施(5・4・3・2・1で評価))

①学習経験

質問項目	質問文	済美小	杉並区	
主体的で対話的 な学びの経験	本物の学び	授業では、普段の生活のことや、社会で問題・話題になっていることを材料に学んでいる。	3.2	3.2
		授業では、「授業を進めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる。		
	探究の学び	授業では、自分の興味や関心に基づいて、自分なりに問いや課題を立てて学んでいる。	3.6	3.6
		授業では、挑戦と失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組んでいる。		
個別の学び	授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる。	3.6	3.6	
	授業中、分からないことがあれば、先生が自分に合わせて教えてくれる。			
協同の学び	授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	3.8	3.9	
	授業では、他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている。			
民主的な学び	学級のみならずに関わることは、自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめてから決めている。	3.2	3.3	
	学校生活で誰かが疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意して変えたりしている。			

②学習経験の成果

成長の実感	授業で学ぶことによって、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている。	3.9	3.9
	みんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている。		
学校生活の充実	学校が楽しい。	4.2	4.1

③学びに向かう力

学びの動機	「知りたい」「分りたい」「できるようになりたい」と思っていることがある。	3.9	3.9
	他の人から「学んでみたら」と勧められたことは、興味がなくても、自分で調べたりやってみたりしている。		
主体的に学習に取り組む態度	新しいことを学んで身に付けようとするとき、自分で目標や計画を立てて学習をやりとげることができる。	3.7	3.8
	学んでいて解決できるか分からない問いや課題に出合ったとき、挑戦したり失敗したりすることを楽しめる。		
	一人で学んでいて、解決できない問いや課題に出会っても、できるまで自分なりにやり続けている。		
対話的に学習に取り組む態度	他の人と一緒に学ぶとき、自分の得意を生かしたり、苦手を補ってもらったりしながら学習を進めることができる。	3.9	3.9
	グループや班で学ぶとき、一人一人のよさが生きる役割分担を、自分たちで考えて学習を進めることができる。		
	グループや班で学んでいて、メンバーの関係がうまくいかなくても、協力し合える方法を自分たちなりに考えて、全員で学習をやりとげている。		

④人間性

自分自身 のこと	自己効力感	自分は、努力をすれば、たいいていのできるようになると思う。	4.0	4.0
		自分は、失敗したとしても、その経験を次に生かすことができる。		
他者との 関係	自己受容感	自分には、自分なりに「よい」と思えるところがある。	4.1	4.0
		自分に短所や欠点があっても、「自分らしさ」だと思える。		
	他者への受容感	相手が話そうと思っていることは、最後まで聞いている。	4.1	4.1
		相手が自分とは違う考えや気持ちでも、最初から否定しないで受け止めている。		
他者からの受容感	学校には、自分の考えや気持ちを分かってくれる仲間がいる。	4.3	4.2	
	学校には、自分のことを認めてくれる先生がいる。			
集団や社会の形成	いまの学級のメンバーなら、協力して、自分も他の人も全員が居心地のよい学級がつくれると思う。	4.1	3.8	
	いまの学校のみならず、協力して、全員が通うことが楽しくなる学校をつくれると思う。			
崇高なものの実感	自分の本当の気持ちを聞いて、自分の生きたいように生きる。	4.0	4.0	
	自分以外の誰かや何かを、自分と同じか、それ以上に大切にしようとする。			